

様式3 実践事例

肝付町立内之浦小学校 第6学年

【授業実践のポイント】

- ① 児童が道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることができるように活動内容を明確にした。
- ② 児童の話合い活動を活性化させるために、ICT機器を適切に活用できるように工夫した。

1 主題名「つながる感謝」[B(8)感謝]

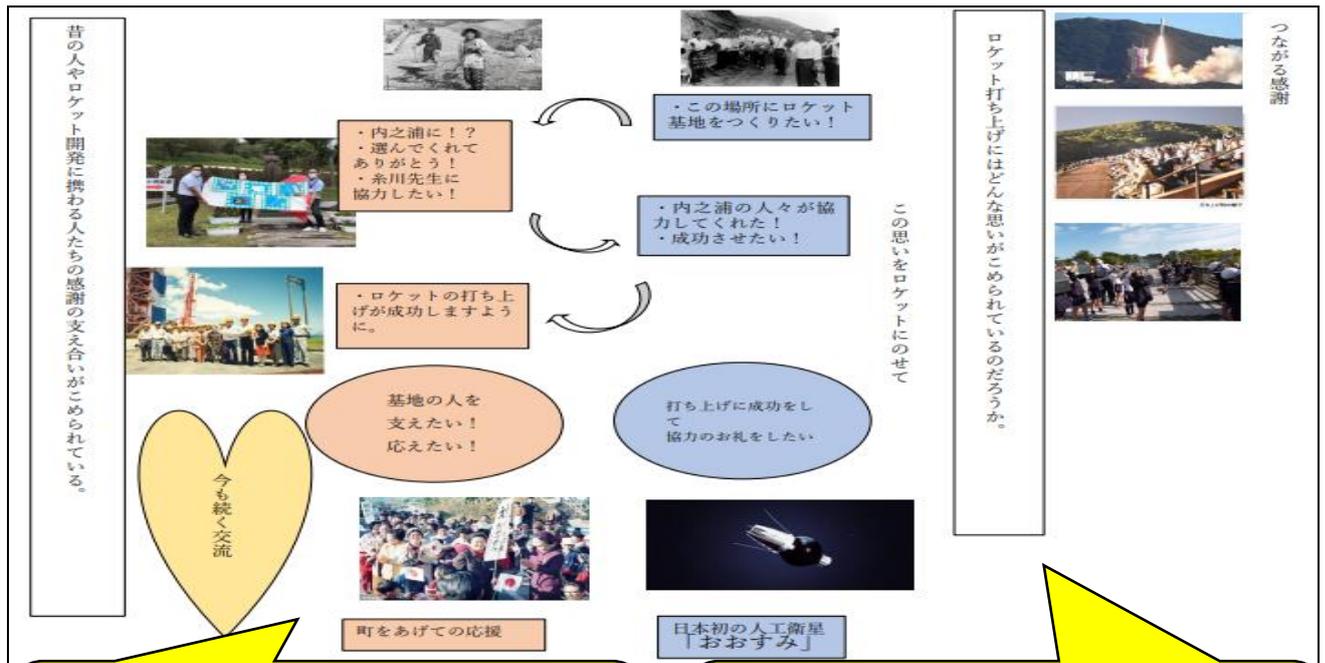
(1) 教材名「この思いをロケットにのせて」(学研「鹿児島県の道徳6」)

(2) 本時のねらい

日々の生活が多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝する気持ちを持ち、自分も人々のために応えようとする心情を養う。

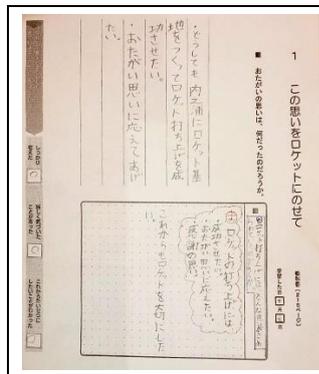
2 授業の展開

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 内之浦のよさについて考える。 2 本時のめあてをたてる。 ロケット打ち上げにはどんな思いがこめられているのだろうか。	(分) 3	○ 「今の内之浦があるのはどんな人の思いがあったのか」という共通の問題意識をもたせるために、内之浦に関するアンケートを提示し、今の内之浦を形作るものを想起させる。【電子黒板】
展開	3 教材を読んで、考え話し合う。 ○ 糸川先生の思いとは ○ 婦人会、町の人々の思いとは ○ お互いの思いとは 4 話合いの内容をまとめる	15 12	○ 感謝の気持ちや、その気持ちに応えたいという相互の関係を捉えることができるようにするために、グループで話し合わせる。【タブレット・電子黒板】
終末	5 今日の学習を通して感じたことを振り返る。 6 ゲストティチャーの話を聞く。 ※ 婦人会の方の話	10 5	○ 自分との関わりで、感謝の気持ちを持ち、多面的・多角的に捉えることができるようにするために「展開」過程での感謝と比較しながら考える。 【タブレット・電子黒板】 ○ 昔から多くの支え合い、助け合いで成り立っていることを実感し、感謝の気持ちを持ち、自分にできる実践への意欲を高めることができるようにするために、ゲストから話を聞く。 【電子黒板】



今の生活があること自体の有り難さや感謝の念を行動に移す大切さに気付くことができるようにするために、主体的な対話活動を行う。

何もなかった内之浦にロケット基地を作ろうとした糸川先生の思いを捉えることができるようにするために、昔の内之浦の様子を読み取る。



〈ワークシート〉

中心発問を活用し、自分の考えをまとめ、振り返りのときに道徳的価値についてふれる。



〈ICT機器の活用〉

ICT機器を活用してロイロノートで、お互いの考えを共有する。

3 実践を終えて

(1) 成果

- ア 板書の色と児童が使用するロイロノートのカードの色を同じにすることで、児童の理解を明確にし、対話活動を行うことができた。
- イ 自分の考えをまとめることが難しい児童は、ICT機器を活用し多様な考えを共有することで、自分の考えを言語化することができた。

(2) 課題

- ア 「地域の人の思いを考える」「糸川先生の思いを考える」「それぞれの思いを考える」など話合いの視点をいくつも設定したので、児童の考えを十分に深めることができなかつた。話合いの視点を焦点化する必要がある。
- イ 児童の道徳的価値に関する変容をみとるために、授業の始めと終わりで道徳的価値に関するアンケートを取り、授業の学習活動に生かす。